

BSサミット
事業協同組合

2025年度 理事紹介

(2025年5月1日時点)

自動車メーカーとのパートナーシップを見据え 法令遵守に注力！

BSサミット事業協同組合は5月から新年度がスタートとなります。今後、自動車整備事業者が自動車技術の進化に対応してアフターサービスを提供し続けるには、自動車メーカーとのパートナーシップが欠かせません。そのため、BSサミットは今年度、法令遵守に特に力を入れて取り組んで参ります。自動車メーカーや損害保険会社をはじめとする関係諸機関の皆様におかれましてもより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



理事長 **磯部 君男**
(株)中央钣金 取締役会長

専務理事 財務担当理事
コンプライアンス
関東甲信越ブロック 担当

黒木 康男
(株)アクセス 代表取締役

副理事長 組織戦略協議会議長
中国・四国・九州ブロック
販売促進委員会・広報委員会・
組合員拡充委員会 担当

藤野 利浩
朝日自動車(株) 代表取締役

副理事長
中部・近畿ブロック
フロント教育委員会 担当
近畿ブロック担当理事

増田 洋一
(株)ミツイオートサービス 代表取締役

副理事長
北海道・東北・首都圏ブロック
次世代自動車研究委員会 担当

石井 英幸
(有)センチュリーオート 代表取締役

首都圏ブロック
担当理事

西村 裕也
ABN(株) 会長

関東甲信越ブロック
担当理事

西澤 謹四郎
(株)カネキ自動車 代表取締役

東北ブロック
担当理事

齊藤 司
(有)カーメンテナンスサイトウ 取締役

北海道ブロック
担当理事

牧野 泰尚
(有)まきのボデー 代表取締役

九州ブロック
担当理事

田中 俊明
(株)カーポートタナカ 代表取締役

四国ブロック
担当理事

野崎 敬三
野崎自動車(株) 代表取締役

中国ブロック
担当理事

小林 秀教
(株)備後钣金 代表取締役

中部ブロック
担当理事

疋田 博康
フジオイル(株) 代表取締役会長

理事
広報委員長

栄治 保則
(株)栄モーター 代表取締役

理事
販売促進委員長

松村 真也
(株)リョウシン 取締役会長

理事
次世代自動車研究委員長

熊本 匡史
(株)初石钣金 代表取締役

理事
フロント教育委員長

奥谷 丈輝
(株)ガラージュモリ 代表取締役

理事
リーディング・マネージャーズ・グループ(LMG)担当

若松 伸一
(株)ワカマツ自動車 代表取締役

理事
教育統合委員長

小林 雅彦
(株)カマド 代表取締役社長

理事

坂井 光藏
坂井モーター(株) 代表取締役

理事
ロードサービス委員長

森松 和博
(株)トータルカーサービスジャパン久留米支店 代表取締役副社長

監事

林 宏宣
ボデーショップ林(株) 代表取締役

監事

浦 彰彦
浦車体整備工場(有) 代表取締役

2面では全国の支部長をご紹介します。

訃報 当組合理事長 磯部君男 の逝去に関するお知らせ

当組合理事長 磯部君男が、去る2025年5月27日に永眠いたしました。生前の多大なご厚情に対し、心より感謝申し上げますとともに、謹んでお知らせいたします。通夜ならびに葬儀は、ご遺族のご意向により密葬にて執り行われます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

ブロードリーフの3つのDXソリューション

クラウド型钣金工場業務支援システム



ブロードリーフは新しいクラウドサービスを本格リリースしました。クラウドだからできる拡張性の高いアプリケーションは業務に革新をもたらします。

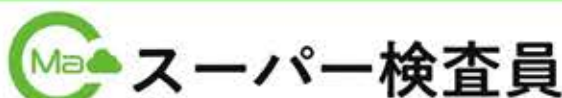
らくらく導入、かんたん操作。「日常業務の効率化」をサポート！



事業内容・事業規模にあった商品パックを用意しています！



車検業務の効率化を支援！



スーパー検査員はミスなく、漏れのない記録簿の作成をサポートする指定整備工場様の車検に特化したクラウド型車検・点検支援システムです。

コンプライアンスの強化と業務効率化をサポート



特定整備制度にも対応
あなたの車検業務がスムーズに！

電子帳簿保存法対応は、おまかせ！



電帳DXなら、作成した電子帳簿が自動登録されるので、スムーズかつ簡単に電子保存をすることが可能になります。

電帳DXで業務をまるごと電子化



電子帳簿保存法、未対応の方必見！

導入ユーザーインタビュー動画
株式会社 REFFECT 様 (4分9秒)

この動画は
こちらから！



BSサミット
事業協同組合

2025年度 支部長紹介

北海道ブロック

北海道第一支部

三愛自動車工業株式会社
代表取締役 大畑 揮義

北海道第二支部

南マルフシ近藤自動車
代表取締役 近藤 順一

北海道第三支部

半田ボディー工場
代表 半田 豪

東北ブロック

秋田支部

南平和自動車塗装
代表取締役 木曾 優作

岩手・青森支部

南親和自動車整備工場
専務取締役 荒川 昭彦

宮城・山形支部

南小茄子川飯金塗装工業
代表取締役 小茄子川 和宏

福島支部

南西田オートファクトリー
代表取締役 西田 克彦

関東甲信越ブロック

新潟支部

南栄モーター
代表取締役 栄治 保則

長野第一支部

南車屋Hizume
代表取締役 船田 信

長野第二支部

南ボディーショップキガサワ
代表取締役 気賀澤 信之

茨城支部

南本間商事
代表取締役 本間 好一

群馬・栃木支部

金子自動車飯金塗装株式会社
代表取締役 金子 智律

山梨支部

大進自動車工業株式会社
代表取締役 齊藤 哲治

首都圏ブロック

東京支部

南服部自動車飯金工業
代表取締役 服部 憲一

千葉支部

南芝野オートサービス
代表取締役 芝野 洋一

埼玉支部

南ボディーショップ佐野
代表取締役 佐野 秀輔

神奈川支部

南内藤自動車
工場長 三浦 和裕

中部ブロック

静岡支部

南ビーエスエム
代表取締役 村田 光伸

愛知支部

南近藤自動車
代表取締役 近藤 洋司

岐阜支部

南豊田モータース
代表取締役 豊田 典義

三重支部

南一志飯金塗装
代表取締役 馬場 工

富山支部

多田自動車工業株式会社
代表取締役 多田 哲郎

石川支部

千房自動車株式会社
代表取締役 松本 義彦

福井支部

南河坂自動車
代表取締役 河坂 茂巳

近畿ブロック

大阪支部

南三国自動車
代表取締役 植林 晃平

兵庫第一支部

南辻本自動車工業所
代表取締役 辻本 博

兵庫第二支部

南ナカムラ
代表取締役 中村 正行

奈良・和歌山支部

南亀岡
代表取締役 亀岡 正策

京都支部

南大嶋カーサービス
代表取締役 大嶋 明

滋賀支部

南エムランド
代表取締役 藤本 昌樹

中国ブロック

岡山・鳥取・島根支部

南フルノ自工
取締役専務 榊原 喬

広島第一支部

南中元自動車
代表取締役 中元 隆之

広島第二支部

南ミシマ自動車飯金塗装
取締役 三島 義幸

山口支部

南関門自工
代表取締役 岩崎 仁

四国ブロック

香川・徳島支部

南香川テストセンター
役員 池田 智信

愛媛・高知支部

南浜村自動車
代表取締役 浜村 義仁

九州ブロック

福岡支部

南井形
代表取締役 井形 善徳

大分支部・北九州支部

南辻自動車工業株式会社
専務取締役 辻 晃秀

西九州支部

南有明飯金塗装
代表取締役 梶原 啓介

熊本支部

南西村飯金塗装
代表取締役 西村 謙介

宮崎支部

南小田自動車
代表取締役 小田 昭

鹿児島支部

南単人自動車工業株式会社
代表取締役 平出水 伸也

沖縄支部

南中部自動車整備工場
代表取締役 山城 竜治

CAR-O-LINER®

カートロニック・ビジョン2 X2/X3

業界最多：約17,000種もの車両データを収録、あらゆる事故車に対応した究極のボディアライメントシステム

エーミング作業の前にはホイール・ボディアライメント作業が必要です

HUNTER

ホークアイエリート WA670

最新鋭のカメラシステムは精緻でスピーディな作業を実現！高い信頼と生産性を約束します

OBD検査用 スキャンツール

IS-J2534 nano

トータルサポートツールに
進化する新時代の検査機器

DoIP / ISO13400

次世代通信
プロトコルに対応

Bluetooth

ワイヤレスタイプ
(有線にも対応)オプション 整備用スキャンツール
としても使用可能

一般社団法人日本自動車機械工具協会 型式試験番号: JASEA-KS-34

BSサミット組合員がオートバックス車買取・販売にFC加盟

オートバックスカーズに新規加盟

BSサミット千葉支部の有限会社センチュリーオート(石井英幸代表取締役)は、カー用品販売大手の株式会社オートバックスセブン(東京都江東区・堀井勇喜代表取締役社長)と車買取・販売事業「オートバックスカーズ」のフランチャイズ(FC)加盟契約を締結し、2025年4月1日に「オートバックスカーズ東松戸店」をオープン。これまでオートバックスカーズ事業は同グループ内限定でFC展開されていたが、今回初めてグループ外の事業者であるBSサミット組合員工場がFC加盟契約となった。これに続いて、奈良・和歌山支部の株式会社ガラージュモリ(奥谷丈輝代表取締役)もFC加盟契約を行い、5月1日に「オートバックスカーズ奈良東九条店」をオープンすることになった。

この動きは、BSサミットとオートバックスセブンが、次世代技術に対応する整備工・カルネットワークモデルの構築を目的として2020年8月に締結した包括的業務提携の一環として実現した取り組みと見られる。BSサミット組合員がオートバックスカーズ事業にFC加盟することになった。同社がオープンしたFC店舗では車両査定システム「査定D」や、同システム付属の膜厚測定器を用いて査定車両の塗装膜の測定を行う。専用のタブレット端末に各部位のチェック箇所を査定項目ごとに確認・入力することで査定額を算出できる。

有限会社センチュリーオートは、FC店舗として中古車の買取・販売を強化し、顧客へのサービス拡充と地域におけるオートバックスカーズの認知度拡大に向けて取り組む。オートバックスグループは、カー用品販売、車検・整備と並ぶ事業の柱の一つとして、車買取・販売のオートバックスカーズを展開し、今回1年ぶりととなるリブランドイングを2024年10月1日から実施。公式Webサイトや販促物、店舗看板などに新ブランドロゴを導入して10月23日には千葉市に直営の大型店「オートバックスカーズ かしわ大井」をオープン。新ロゴブランドを掲げ、100台規模で良質な車両在庫を展示し、車検・保険・カー用品販売・車内外リフレッシュといったアフターサービスも提供する。車両査定システム「査定D」による経験や勘に頼らない正確かつ統一した査定を実現してブランド力向上やサポート体制を構築。引き続きグループ外の事業者を対象にFC加盟を募り、さらなるFC拡大を図る考えがある。今後も包括的業務提携の一環として、BSサミット組合員工場がFC加盟に向けた動きが予想される。

オートアフターマーケット連絡協議会 第6回定期総会・2025年度4月定例会開催 各業界の動きから次の商機のヒントを探る

4月16日(水)、アクロス福岡(福岡県福岡市中央区天神1-1-1)6階606会議室で「オートアフターマーケット連絡協議会」の第6回定期総会および2025年度4月定例会が開催された。同協議会は、自動車アフターマーケットに関する幅広い事業者の情報交流の場を創出し、それぞれのビジネスの拡大や発展に向けた議論を行い、自動車ユーザーの便益拡大に寄与する活動を通じて社会に貢献することを目的に、2012年に発足した。BSサミットの藤野利浩副理事長が代表理事を務め、現在はBSサミット事業協同組合、全日本ロータス同友会、株式会社同協議会の代表理事を務める藤野利浩副理事長の挨拶。

報告のほか、各会員から最新状況と業界動向の情報交換が行われた。BSサミットの金子幹司事務局長からはトピックスとして、機部理事長が組合員への挨拶の中で、「ソフトバンクグループの孫正義会長の講演をYouTubeで視聴し衝撃を受けた。2023年の講演では、Chat GPTなどのAIが導入されている中で、全人類の教習の総和の10倍に匹敵するAGIという領域に10年以内に到達すると予測されていたものの、2024年の講演ではその予測が修正され、AGI到達が2〜3年以内に実現するとされた。孫会長がさても予想できないスピードであること認識しなければいけない。好む好まざるに関わらず、今からAGIの未来を予測し、取り組む企業こそがこれからの産業界をリードしていく存在になると感じた」と述べたことが紹介された。

業界動向としては、BSサミットとして、労働安全衛生上の観点から、高電圧車両の事故は特に危険を伴うため、作業中、保管中に注意すべき項目について「整備工場(一般、車体)及びロードサービス事業者における高電圧車両取り扱いガイドライン」を作成したことを報告した。組合員に限らず、広く業界に使ってもらうため、興味のある方はBSサミット事務局まで連絡頂くようお願いした。また3月4日に国土交通省より発信された「車体整備事業者による適切な価格交渉を促進するための指針」に関して、BSサミットが議員連盟を通じて強く要望してきた結果が4省庁(国交省、金融庁、中小企業庁、公正取引委員会)の連携であると触れた。

BP経営マネジメントシステム

お問い合わせは下記へ

コグニ7で作成した見積書をベースに『工程管理』、『作業状況管理』、『売上粗利管理』、『担当者別売上管理』が実現します

全国販売・保守サポート承ります!!

【代車状況一覧画面】

【作業状況一覧画面】

【担当者作業状況画面】

Emotional Business Enhancer

EBE inc. 株式会社 EBE (イーバ)

東京都千代田区神田淡路町2-23-1 お茶の水セブン 4F
TEL:03-5298-1851 / FAX:03-5298-1852
http://www.e-b-e.co.jp/

「見積セミナー」を開催！

Leading Managers Group(LMG)活動報告



2025年4月8日、銀座ユニーク貸会議室7丁目店(東京都中央区)にて、LMG主催の「見積セミナー」を開催。

冒頭、LMG会長の若松氏より「自動車整備業が労働費を価格転嫁できない業種としてワースト1位になったことは皆さんも報道等で存じかと思えます。労務費を価格転嫁する努力をしないと、人材は別業種に流出してしまい、われわれが自動車整備業を営む経営者として勉強しなければならぬのはレバレッジ、作業指数が適切であるかどうかです。自分の見積り、自社の見積りが自分の意思を反映したものになっているのか、また「適正」とはどういう意味なのか、先日国土交通省から発表があった、車体整備事業者による適切な価格交渉を促進するための指針」をよく読み込んで、経営者自ら学び、交渉の場に臨んでいただきたい」と話が

行われた。

また、今回セミナーを企画したLMGグループのリーダー尾又氏は「昨今、我々の業界は多くの困難に直面しております。保険会社対応単価、自社レバレッジ、材料費等の高騰などを各社が最重要課題として取り組む現状を鑑み、セミナーを企画いたしました」と、その意図を明らかにした。

本セミナーには、講師として有有限会社親和自動車整備工場(岩手支部)の荒川昭彦氏を迎えて行われた。荒川氏は2016年に開催された「BPグループ2016」(主催・日本自動車車体整備協同組合連合会、プロトリエ)の見積り部門で優勝をした経験を持つ見積りのスペシャリストである。今回のセミナーでは、事前に参加者に見積り作成用の損傷あり車両画像を配布し、その画像を基に各自が事前に見積りを作成。当日、同じ車両画像を使い講師が見積りを作成、解説を行うことで、自社の見積りとの差を学ぶ方式が用いられた。

講師を務めた有有限会社親和自動車整備工場(岩手支部)の荒川昭彦氏

冒頭、LMG会長の若松氏より「自動車整備業が労働費を価格転嫁できない業種としてワースト1位になったことは皆さんも報道等で存じかと思えます。労務費を価格転嫁する努力をしないと、人材は別業種に流出してしまい、われわれが自動車整備業を営む経営者として勉強しなければならぬのはレバレッジ、作業指数が適切であるかどうかです。自分の見積り、自社の見積りが自分の意思を反映したものになっているのか、また「適正」とはどういう意味なのか、先日国土交通省から発表があった、車体整備事業者による適切な価格交渉を促進するための指針」をよく読み込んで、経営者自ら学び、交渉の場に臨んでいただきたい」と話が

第29回 自動車整備技術の高度化検討会

学識経験者、関係業界、行政機関等が整備技術の将来像を見据えた検討を実施

国土交通省は、令和7年3月21日に「第29回 自動車整備技術の高度化検討会」を開催し、整備技術の高度化と汎用スキャンツールの機能向上の必要性や整備要員の技能向上等の人材育成について議論を行った。

スキャンツール問題に解決の糸口 新しいスキームの具体的試案が提示される

スキャンツールの 重要性と多様性

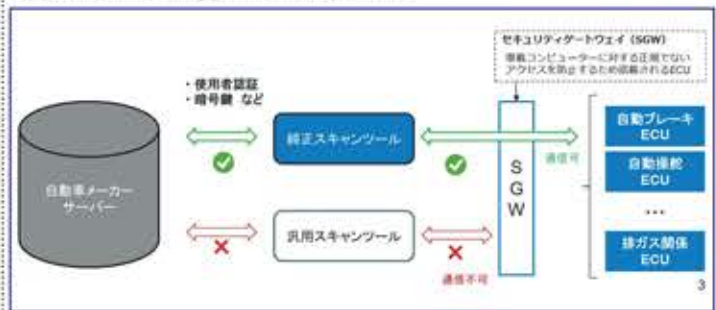
現代の自動車は高度に電子制御されており、車載コンピューターの診断を行う「スキャンツール」は不可欠な存在となっている。スキャンツ

ールには大きく分けて3つの種類がある。一つは、自動車メーカーがディーラー向けに開発する「純正スキャンツール」で、特定のメーカーの車両に特化した、その車両に関する全ての整備作業に対応可能だ。もう一つは、複数のメーカーの車種に対応できる「汎用スキャンツール」である。汎用スキャンツールには、自動車メーカーから提供される技術情報(OBD情報)を活用して開発されるものと、ツールメーカーが独自に開発

したものがある。現状では汎用スキャンツールで行える作業は、純正スキャンツールに比べて限定的であるという課題がある。3つ目は、OBD検査に使用する「検査用スキャンツール」だ。検査用スキャンツールは、保安基準に関わる特定DTCの有無を検査するものであり、整備を行うものではないので今回のテーマからは除外して考えたい。しかし、一言でスキャンツールと言っても、それぞれ用途やできることが異なるので、自社が保有するもので何ができるのかは把握しておくべきである。

一セキュリティを確保することが義務付けられている。これに対応するため、自動車メーカーは車両に「セキュリティゲートウェイ」(SGW)と呼ばれるECU(電子制御ユニット)を搭載している。このSGWの導入により、自動車メーカーは自社サーバーを通じてスキャンツールの使用者の認証や、暗号鍵を用いた作業の管理などを行っている。これらの認証や管理は、「純正スキャンツール」を使用することが前提となった仕

組みになっている。この結果、汎用スキャンツールを使用している専門工場等では、診断ができない車両や診断はできても必要な整備作業を行えないケースが増えてきている。今後、そのような車種が増えていくことは明らかであり、かつ一般的な整備作業であっても行うことができなくなる恐れもあるため、今後の自動車整備において汎用スキャンツールの機能向上が喫緊の課題であることを示している。



ディーラーの限界と 日本全体の 整備能力の懸念

国土交通省は高度化検討会において、「日本の自動車整備は、全国に約9.2万ある整備工場(認証工場)によって支えられており、そのうちディーラーは約1.6万工場(全体の18%)に過ぎません。車検整備の8割以上は、ディー

ラー以外の専門工場等が担っています。ディーラーは自動車メーカーが開発した純正スキャンツールを用いて全ての整備作業に対応できる一方、専門工場は汎用スキャンツールで対応できない作業が発生した場合、一般的にディーラーに車両を持ち込んで作業を依頼しています。しかし、ディーラーは慢性的な人手不足と働き方改革の推進という課題

に直面しており、その対応能力はすでに限界に近い状況です。近年、自動車技術の急速な進展により整備の高度化が求められ、これまで以上に高機能なスキャンツールが必要とされています」と、このまま専門工場で対応できない作業が増加し続ければ、日本全体の自動車整備能力が逼迫する恐れがあることに言及した。

専門工場における 整備技術向上のための 国の方針

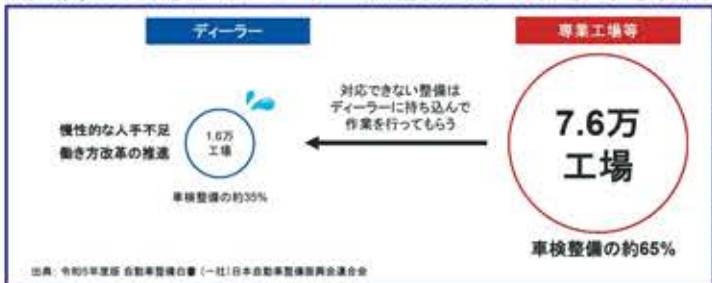
前項までの課題に対して国土交通省は二つのアプローチを推進するとしている。一つは、専門工場等が「純正スキャンツール」をより購入・レンタルしやすい環境を整備すること。自動車メーカー等による純正スキャンツールの提供義務に関する道路運送車両法第57条第1項の遵守状況を調査し、適切に提供されていない場合には指導や処分を行う方針を明らかにした。もう一つは「汎用スキャンツール」の機能向上を促進することで、「汎用スキャンツール」開発情報提供に関する運用ルール等の抜本的見直し(案)」

と題した、標準仕様WGの構成員が新制度のイメージを共有するために作成した試案が提出された。試案には、前述の課題に対して、公的な第三者機関が自動車メーカー各社から情報を一元的に購入・管理し、一定の要件を満たすツールメーカーに提供(有償)することで解決に導くスキームがまとめられている。

一般整備、車体整備問わず、OBD検査が始まったことで顕在化してきた課題に対して、国土交通省が解決の糸口となり得る提示をしてきた。本検討会はこれまで年1回程度の開催だったが、今年度のスケジュール案には3回の予定が記されている。これから急ピッチで動き始めることが予想されるので注視が必要だ。

サイバーセキュリティ 強化による 整備作業への影響

一方で自動車メーカーは、自動車基準調和世界フォーラム(WP29)が策定したサイバーセキュリティ法規「UN-R155」への対応により、製造する車両に対してサイバ



「自動車整備士等の働きやすい・働きがいのある 職場づくりに向けたガイドライン」をアップデート

また、高度化検討会では、近年、自動車整備要員の有効求人倍率の上昇、過去20年で自動車整備学校入学者数の半減、平均年齢の上昇など、整備業界の人材不足が顕在化しており、かつ少子化や職業選択の多様化により、自動車整備士を目指す若者が減少している課題に対して、昨年3月に策定した「自動車整備士等

の働きやすい・働きがいのある職場づくりに向けたガイドライン」をアップデートすることが明らかにされた。国土交通省は、ガイドラインの実施状況を確認すべく、認証工場および指定工場を対象にアンケート及びインタビューを実施、合計1043事業者からのアンケート回答と、32事業者へのインタビューの内容を踏

まえて、ガイドラインのアップデート方針を以下の5項目に定めたことを報告した。

- ①全ての事業者が自社の取組を体系的に確認できる内容に再編集する
- ②自己分析表を用いて自社の現状を手軽に知ることができるようにする
- ③人材確保に向けた取組の実施状況を更に詳細に確認す

ることができるようにする

④実際の事業者の取組事例を掲載し、自社の取組を検討する際の参考にできるようにする

⑤人材確保に向けた取組の実行や定期的な振り返りに関する情報の更新を行う

ガイドラインのアップデートは、3月から4月頃を予定

していると説明があったが、情報収集等の進捗が遅れているため5月中(5月25日時点では発表なし)を目処に進行しているという。



第35回

フロントバンパー取り付け時のセンサー結線忘れ

BS TECHNICAL
最新自動車技術・事故車修理

TEXT: 泉山 大 (プロジェクトD)

OBD 検査の不適合率
4.6%

2024年10月1日よりOBD検査が開始され、半年以上が経過しました。この間、国土交通省はOBD検査に係る各団体とOBD検査モニタリング会合を定期的に開催し、OBD検査の運用状況や報告されている課題と対応などを公表しています。今年2月23日時点、8万3,606台がOBD検査を受けており、3,848台に不適合が検出されました。不適合の割合は4.6%となっています。

OBD 検査実績 (2月23日現在)

検査実施主体	検査台数			不適合率 (%)
	計	不適合なし	不適合あり	
指定整備工場	67,842	64,765	3,077	4.5
(独)自動車技術総合機構	3,169	642	377	11.9
軽自動車検査協会	12,595	12,201	394	3.1
計	83,606	79,758	3,848	4.6

出典: OBD 検査モニタリング会合

安全系特定 DTC 検出
センサー結線忘れの可能性

そのうち、指定整備工場で実施されたOBD検査での不適合割合は4.5%で推移していますが、不適合の発生要因として安全系の特定DTCの検出が増加傾向を示していることが分かっています(下表)。カメラ、ミリ波レーダー、コントロールユニットの故障の内、最も多い故障要因はセンサーの「通信途絶」と判明しており、国土交通省では「通信途絶」のDTCが記録される原因として「バンパー等を取り外して行う修理後のセンサーの結線忘れ等が原因である可能性もある」と指摘しています。これは指定整備工場だけの不注意ではなく、外注として委託された車体整備事業者の作業で結線忘れが生じている可能性があり、注意が必要です。

指定整備工場における OBD 検査の主な不適合要因

	不適合要因	検査期間	24年10月1日～ 24年11月24日	24年11月25日 ～25年2月23日
排出ガス系	電圧不足		41	86
	警告灯信号		5	10
	レディネスコードなし		550	825
	通信不成立		309	617
	特定 DTC		6	10
安全系	特定 DTC		310	1,155

出典: OBD 検査モニタリング会合

搭載点数が増加する
コーナーセンサー

ASV (Advanced Safety Vehicle) から SDV (Software Defined Vehicle) への移行に伴い、ADAS に係るセンサーは多様化しました。バンパーに埋め込まれるセンサーの数も飛躍的に増加し、近年は上級車などのソナー系センサーは、フロントバンパー前部(例: ウルトラソニックセンサーフロントセンター)やサイド側(例: ウルトラソニックセンサーフロントサイド)にも取り付けられるケースが見られ、合計で6つのセンサーがフロントバンパーに組み込まれているクルマも珍しくありません。フロントバンパーの脱着時のセンサーの取り扱いが難しくなっていることは間違いありません。



新型クラウンにはフロントバンパーに6つのソナー系センサーが埋め込まれている
出典: トヨタ自動車株式会社

ソナー系センサーも
OBD 検査対象装置に影響

バンパーに埋め込まれたソナー系センサーは電子制御装置整備対象ではないため、OBD検査の特定DTCに関与しないと思われるがちです。しかしながら、OBD検査において、リヤコーナー左右のウルトラソニックセンサーの「通信途絶」が原因となり、特定DTCが検出されたケースがありました。国土交通省の見解は「OBD検査の対象装置にも影響が生じるおそれがある」装置については特定DTCの対象であると指摘しています。今後は自動運転レベルの向上とともに、各センサーが相互的に作用するため、あらゆるセンサーが電子制御装置へと統合されていくことが予想されます。

複雑化するバンパー ASSY
DTC 確認で結線忘れを防止

また、近年はフロントバンパーが大型化するとともに、アッセンブリー化も進み、取り付けられている部品点数も飛躍的に増加しました。例えば、車両の周囲360度をセンシングする全方位カメラのフロントカメラやサイドレーダーセンサーがフロントバンパーアッセンブリーにマウントされるケースも増加しています。ソナー系センサーだけでなく、フロントバンパーに係るセンサー事情はますます複雑化しています。これに伴い、バンパーの取り外しの工程が増大しました。ボルトやスクリュー、そしてクリップの数も増えており、これらの脱着でも相当な作業工数となっています。ボルト類の取り付け忘れやセンサーの結線忘れはあってはならないことですが、万全の確認で防止することが求められます。また、フロントバンパー脱着時に補機バッテリーマイナスターミナルを切り離さず作業を行うとセンサー系のDTCを記録させてしまう可能性があります。必ず、整備要領書に基づいた作業の実施が重要です。結線忘れなどのヒューマンエラーを防止するにはバンパーの脱着作業終了後にスキャンツールによるDTCの確認が効果的です。また、センサーのハーネスはデリケートな部品のため、取り扱いに注意が必要です。

ビジネスの移動革命、できます。



東京営業第一部
東京都新宿区西新宿三丁目20番2号
東京オペラシティビル
TEL: 03-5302-9893



月別リサイクルパーツ別実績 2025年3月～2025年4月(全国)

BSサミット 販売促進委員会

リサイクルパーツ普及拡大に向けて
廃車輸出の増加がリサイクルパーツ価格に影響

事故車修理時のコスト低減は、損害保険会社やユーザーにとっても、ますますニーズが高まっております。BSサミットでは、環境負荷低減とともに、こうしたコスト削減に寄与することを目的として、販売促進委員会を中心とし、自動車補修部品のリサイクル促進を進めています。今後とも積極的なリサイクルパーツの活用をよろしくお願いいたします。

近年、自動車補修用リサイクルパーツの価格高騰の一因として、廃車輸出の増加が挙げられます。円安の影響で、海外のバイヤーにとって日本の中古車が割安になり、本来国内で部品取りに回されるはずだった低年式車や多走行車、事故車までもが高値で海外に輸出されています。日本車の高い信頼性と耐久性が、海外での需要をさらに押し上げています。これにより、国内で流通するリサイクル部品の供給量が減少し、需給バランスの崩れから価格が上昇。リビルト部品の製造に必要な「コア」の不足も深刻化しています。この傾向は、修理費用に影響を与える可能性があります。我々、修理事業者は動向に注視をするべきでしょう。

※その他「エンジン・ミッション・ラジエター・コンデenser・コンプレッサー・フロントガラス等のリサイクルパーツ」(新品パーツは除く)

内 訳	2025年		合 計
	3月	4月	
	数 量	数 量	数 量
フロントバンパー	298	221	519
リヤバンパー	178	151	329
ヘッドライト	374	339	713
ボンネット	114	108	222
フェンダー	292	250	542
ドア	479	454	933
トランクリッド・リヤゲート	140	131	271
テールランプ	281	265	546
その他※	2,280	2,007	4,287
合計	4,436	3,926	8,362

ストップ!
粗悪修理!!

「ストップ粗悪修理」は、次世代自動車研究委員会や広報委員会を中心に収集している他社工場での粗悪修理情報を、BSサミットニュースやカーケアプラスなどのメディアを通じて公開しております。

不具合車両の撲滅とユーザーへ安心と安全を提供すべく、本来あってはならない修理不具合・不正修理の現状・実態を明らかにし、適切な修理を行うことの重要性を呼びかけております。今後とも主旨をご理解いただき「修理不具合情報」のご提供をよろしくお願いいたします。

不完全修理例①

フロントドア破断の原因は前回修理時の防錆処理不足か

壁に衝突して損傷した左側面ですが、以前に修理されたと思われるフロントドアが、今回の衝撃により破断してしまいました。調査の結果、前回の修理時に防錆処理が十分に行われていなかった可能性が高く、錆が進行したことによって該当箇所の強度が著しく低下していたものと考えられます。



不完全修理例②

リアフェンダー交換部の不適切修理により雨漏り発生

車検を依頼された車両の納車前に洗車を行っていたところ、車内への雨漏りが発生いたしました。調査の結果、当該車両は以前にリアフェンダーが交換されており、その際の修理作業が不適切であったことが原因と判明しました。具体的には、スポット溶接が実施されず、数カ所のみプラグ溶接が施されていたため、パネルの接合部に隙間が生じ、雨水が浸入したものと考えられます。

本件は、手抜き作業の典型例といえるものであり、当該工場の組合員は、車体剛性への不安が残る状態であることをお客様に説明し、以前修理を行った工場に相談するようアドバイスを行ったと報告されております。



この様な不具合車両をなくすために、皆様からの情報提供をお願いします。



自動車整備業に関わる皆さまのお役に立ち続けるため
未来の地球環境を明るく照らし続けます。

さらなるCS向上へ向けたリサイクルパーツの提案に

リサイクルパーツ特注システム

Reparts Direct System

リパーツダイレクトシステム(RDS)

皆様、安心して「リパーツダイレクトシステム」をご利用いただけるよう「BSネットワークコールセンター」の専任スタッフがお客様にご提供いただいたパーツの適合確認をさせていただきます。正確な部品発送をサポートさせていただきます。

自動車リサイクル部品のお問い合わせは

BSネットワークコールセンター

Tel:052-441-7503 (平日9:00~18:00) Fax:052-441-7628



株式会社ビッグウェーブ・株式会社JARAは提携し合い、常に最良品質の自動車リサイクル部品の生産と販売に取り組んでいます。

NGPの
リユースパーツ

驚異の!

クレーム率 0.7%

年間販売点数 140万点

全品保証付き

リユースパーツのご注文は
高品質部品のNGP組合員まで
最寄りのNGP組合員はこちら

※2023年4月～2024年3月までの実績

NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合 / 株式会社 NGP
〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F TEL:03-6705-1208

組合員訪問



東北ブロック 福島支部 株式会社ニューオート

国産車から輸入車まで 顧客の期待に応える柔軟な対応力！

創業から現在へ

着実な成長と世代交代

今回の組合員訪問は、福島市と郡山市を商圏に钣金塗装工場を営む株式会社ニューオートである。同社が拠点を置く福島市は、阿武隈川と信夫山の自然に囲まれ、肥沃な土地から桃やリンゴなどの果物が豊富に採れる「くだもの王国」として知られる。一方、郡山市は福島県内最大の人口を擁する中核都市であり、商業・工業の中心地としての活気がある。ニューオートは、この異なる特性を持つ二つの都市を商圏とすることで、幅広い顧客ニーズに対応している。

確かな品質の証

プラチナ認証とメーカー認定

ニューオートの事業において、特に注目すべきは钣金塗装部門の卓越した技術力と、その品質を裏付ける認証取得の取り組みである。世界的な第三者認証機関であるテュフラインランドジャパン株式会社が定める钣金塗装工場認証「プラチナ」の取得は、単に設備が整っているだけでなく、法令遵守（コンプライアンス）体制、高度な技術力、厳格な品質管理体制など、多岐にわたる厳しい基準をクリアした工場にのみ与えられる。2025年3月1日時点、全国でわずか60工場しか取得していない。小原社長は、このプラチナ認証の取得について、「自社が確固たる基準を満たした信頼できる工場である」ということを明確に



手前が整備棟で奥が钣金塗装棟



钣金塗装棟にはテュフとアクソノーベルの大きな看板



テュフのプラチナ認証取得時に水性塗料の導入とアルミ作業場を設置



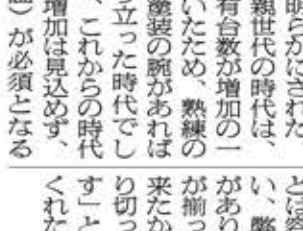
多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



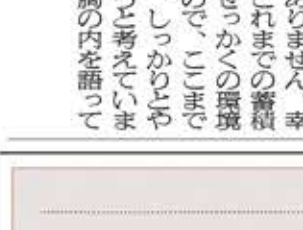
多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



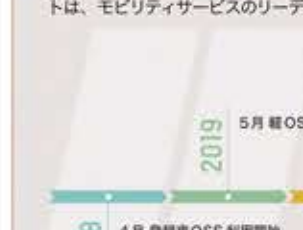
多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



多数の診断機を駆使して修理・整備を行う

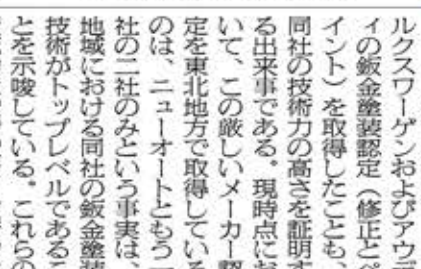


多数の診断機を駆使して修理・整備を行う

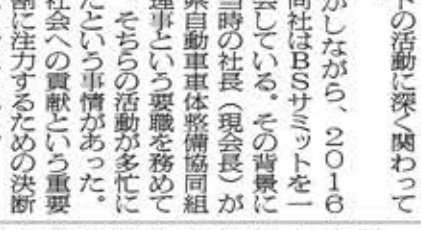


多数の診断機を駆使して修理・整備を行う

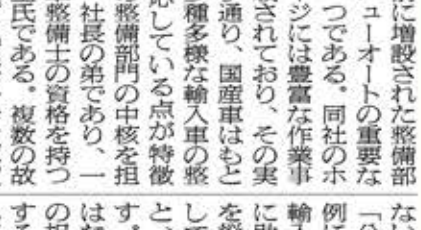
5年前に整備棟を新設



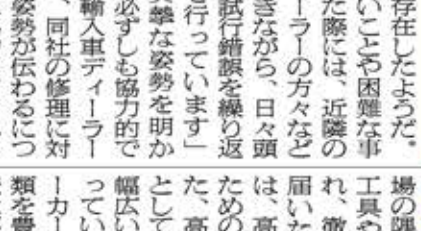
多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



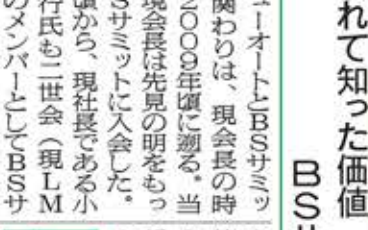
多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



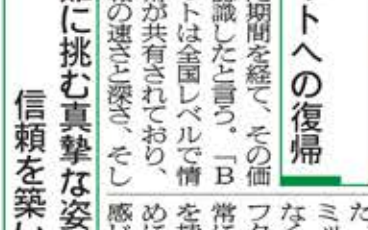
多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



多数の診断機を駆使して修理・整備を行う



多数の診断機を駆使して修理・整備を行う

離れて知った価値

BSサミットへの復帰

ニューオートとBSサミットの関わりは、現会長の時代、2009年頃に遡る。当時、現会長は先見の明をもってBSサミットに入会した。その頃から、現社長である小原智行氏も二世会（現LMG）のメンバーとしてBSサミットの活動に深く関わっていた。

困難に挑む真摯な姿勢

信頼を築いた整備の現場

5年前に増設された整備部門も、ニューオートの重要な一翼を担っている。同社のホームページには豊富な作業事例が掲載されており、その実績が示す通り、国産車はもとより、多種多様な輸入車の整備に対応している点が特徴だ。この整備部門の中核を担っているのは、社長と兄弟であり、一級自動車整備士の資格を持つ小原輝星氏である。複数の故障診断機と特殊工具を駆使し、他の整備工場が敬遠するような複雑な修理にも取り組んでいる。

しかしながら、2016年、同社はBSサミットを一度退会している。その背景には、当時の社長（現会長）が福島県自動車整備協同組合の理事という要職を務めており、そちらの活動が多忙になったという事情があった。地域社会への貢献という重要な役割に注力するための決断だったと考えられる。そして時が経ち、代わりという新たな局面を迎え、ニューオートはBSサミットへの復帰を果たした。この復帰の大きなきっかけとなったのは、小原社長と二世会メンバーとの繋がりであった。さらに、機部理事長と石井副理事長の温かい連絡も、小原社長の決意を後押しする決定的な手となった。

小原社長は、BSサミットを離れた期間を経て、その価値を再認識したと言っている。「BSサミットは全国レベルで情報や技術が共有されており、その情報の速さと深さ、そして

て何よりも会員全体の危機意識の高さが他とは違っている」と、退会してからこそ明確になったBSサミットの魅力を語った。この言葉からは、BSサミットが単なる業界団体ではなく、変化の激しい自動車業界に欠かせない重要な存在として、常に最先端の情報と高い意識を持って共に成長していくために重要な役割を担っていることが感じられる。

小原社長は、BSサミットを離れた期間を経て、その価値を再認識したと言っている。「BSサミットは全国レベルで情報や技術が共有されており、その情報の速さと深さ、そして

小原社長は、BSサミットを離れた期間を経て、その価値を再認識したと言っている。「BSサミットは全国レベルで情報や技術が共有されており、その情報の速さと深さ、そして



乱雑な作業環境では良いサービスをお客様に提供することは出来ないと考え、常に整理整頓を心がけている

自動車の進化に伴う様々な法改正

自動車業界 100 年に一度の大改革期の真っ只中にあり、政府主導で自動運転技術や運転支援技術の普及を目的とした様々な法改正が続いています。そして今年 2024 年はいよいよ、特定整備の経過措置期間が終了し、OBD 車検の運用が開始され、モビリティサービス事業者に求められるハードルは益々上がります。BS サミットは、モビリティサービスのリーディング組織として、時代の潮流を泳ぎ様々な難局を乗り越えるべく、常に先を見据えた取り組みを行っています。



革命はここから始まる！

100年に一度の大変革期をともに勝ち抜いていく志高きメンバーを募集しています。

BSサミット事業協同組合

TEL 03-3538-2900 E-mail: honbu@bs-summit.co.jp

http://www.bs-summit.jp